

米国でのスクープ 致命的な免疫

ロバート・F. ケネディ Jr. は、水銀/自閉症スキャンダルの政府隠ぺいを調査します。

ロバートF.KENNEDY JR によって。

2000年6月に、トップの政治科学者および厚生当局のグループが、ノークロス、ジョージアの分離されたSimpsonwood 会議場に会合のために集まりました。疾病管理予防センターによって召集されて、会合はこのメソジスト教徒の避難センターで開催されました、完全な秘密を保証するためにチャタフーチー川の隣の木の茂った農地ですり寄りました。機関は、セッションの公の発表を出していませんでした -- 52 の出席者への個人の招待だけ。CDCと食品医薬品局のハイ・レベルの職員、グラクソ・スミスクラインを含むすべての主なワクチン・メーカーのジュネーブおよび代表の世界保健機構のトップのワクチン専門家、メルク、ワイエスおよびアベンティス・パストゥールがいました。審議中の科学的資料のすべて、CDCの職員は繰り返し参加者に思い出させました、厳密に「禁止された。」ドキュメントの写真複写を作ることができないでしょう、それらを備えた魅力のある書類はない……それらが去った時。

連邦政府高官および業界代表は幼児と幼い子どもに処理された、多数の共通の幼年期ワクチンの安全性に関する警報を発する問題を提起した気がかりな最近の研究について(この人は100,000人の子どものカルテを含んでいる機関の重いデータベースを分析して議論するために集まりました。トムVerstraetenたという名のCDCの疫学者によれば、ワクチン(チメロサル)中の水銀に基づいた防腐剤は、自閉症の劇的な増加および子ども間の多数の他の神経学上の障害の原因に見えました。「私は、実際に私が見たものに茫然としました」とVerstraeten が、チメロサルとスピーチの遅れと注意力欠如障害、活動過多および自閉症の間のリンクを示す初期の研究の驚異的な数を引用して、Simpsonwoodで組み立てられたものに伝えました。1991年以来、3つの追加のワクチンが防腐剤でレースで飾るようにCDCとFDAが勧めた時、……非常に若い幼児(誕生の数時間以内の1つのケースに)に与えられる……自閉症のケースの概算数、500人の子どもごとの中のもの1人から1人に増加させました。は166人の子どものうちfifteenfoldを
2

生と死の直面する問題に慣れていた科学者(アメリカ小児科学会のコンサルタント)と医者のためにさえ、発見物は恐ろしかった。「あなたは、これで望むすべてをすることができます」とビル・ヴェーユ博士が、グループに伝えました。結果は「統計的に重要である。」(その孫が会合の1日目の朝に初期に生まれたコロラド大学の免疫学者および小児科医)リチャード・ジョンストン博士は、もっとその上びつくりしました。「私の腸感情」彼は言いました。「この個人的コメントを許してください -- 私は、何が起きているか私たちがよりよく知っているまで、孫がチメロサルを含んでいるワクチンを得ることは望みません。」

しかし、公に警告を出し、かつチメロサルをワクチンの供給から除去する即時のステップを取る代わりに、Simpsonwood の職員および幹部は、有害なデータを隠す方法について議論する次の2日のうちのほとんどを過ごしました。情報の自由法の下で得られた記録によれば、会合での多数が、チメロサルに関する有害な意外な新事実がどのようにワクチン産業の最終結果に影響するだろうかについて関心を持っていました。「私たちはどんな訴訟も防御する見地から(デラウェアの子どものためのアルフレッド)悪い位置にいます」とロバート・ブレント博士 I.duPont 病院の小児科医が言いました。(CDCのためのワクチン安全性のヘッド)「これは、この国の私たちの非常に忙しい原告弁護士への資源になるでしょう。」ボブ・チェン博士、表現された軽減「情報の感度を与えられたそれ、私たちは手

からそれを維持することができました……の、言いましょう、それほど信頼できない手。」ジョン・クレメンツ博士、世界保健機構のワクチン・アドバイザー、研究が「全く行われるべきではあり」それを警告した、と平らに宣言する「結果は他のものによって得られ、このグループのコントロールを越えた方法で使用されるでしょう。研究結果を扱わなければなりません。」

実際、政府は、子どもの健康の保護でよりも損害の扱いにはるかに熟達していると分かりました。

CDCは、チメロサールの危険に白塗料を塗る最近の研究を行なうために医学研究所に払いました、「除外する」ように研究者に命じること……化学薬品の自閉症へのリンク。それらは即時の出版に予定されたが、それはVerstraetenの判決を保留し、オリジナル・データが元あった他の科学者が「失敗し」模写することができなかった、と伝えました。また、情報の自由法を妨害するために、それは、それを研究者に立ち入り禁止に宣言して、民間会社にワクチン・レコードのその巨大なデータベースを上方へ渡しました。Verstraeten が2003年に最後に彼の研究を公表した時までに、彼はグラクソ・スミスクラインのための仕事に行っており、チメロサールと自閉症の間のリンクを埋めるためにデータを再加工しました。

ワクチン・メーカーは、アメリカの幼児に与えられた注入からのチメロサールを既に調整し始めました -- しかし、それらは、昨年までワクチンの水銀に基づいた供給を売り払い続けました。CDCとFDAは、開発途上国への輸出のために汚染されたワクチンを買切り、製薬会社がいくつかのアメリカのワクチンの中で防腐剤を使用し続けることを可能にして、それらに手を与えました -- 11歳に慣例的に与えられた破傷風ブースターと同様にいくつかの小児科のインフルエンザの予防注射も含まれます。

製薬会社は、さらにワシントンで強力な立(この人は貢献で製薬産業から873,000 ドルを受け取った)法者から支援を得ています。上院院内総務ビル・フリストは、負傷した子どもの親によって起こされた4,200の訴訟中の責任からのワクチン製造会社を免疫にするために働いています。5つの別個の場合においては、フリストが、召喚状から、政府のワクチン関係書類(Simpsonwood 記録を含んで)およびシールド、イーライ・リリー(チメロサールの開発者)すべてに署名しようとしてきました。2002年には、後日、フリストが、国土安全保障法案、彼のキャンペーンへの会社に寄与された\$10,000の中への「イーライ・リリー保護法」として知られている乗り手を静かに滑らせて、バイオテロリズムについての彼の本の5,000のコピーを買いました。法案は2003年に議会によって撤廃されました -- しかし、今年の初めに、フリストは、ワクチンに関連する脳障害に苦しむ子どもに補償を与えないだろう、反テロリズム法案へ別の準備を滑り込ませました。「訴訟は、それらがワクチン生産者を廃業に追い込むことができ、テロリストによる生物攻撃に対処する私たちのキャパシティ(フリストへの立法の助手)を制限することができた大きさであります」とアンディー・オルセンが言います。

多くの保守主義者さえ、チメロサールの危(インディアナの共和党員)険を隠す政府の努力によって衝撃を受けます。彼の孫が自閉症と診察された後、ダン・パートン下院議員は、チメロサールの3年の調査を監視しました。「ワクチンの中で防腐剤として使用されるチメロサールは、直接自閉症の流行病と関係があります」と彼の下院政府改革委員会がその最終報告の中で結論を下しました。「この流行病は多分防がれたかもしれないし削減されたかもしれませんが……FDAをなかつた……注入されたチメロサール、既知の神経毒に関する安全データの不足に関するスイッチで眠っている」FDAおよび他の公衆衛生機関は行動しませんでした。委員会は「自己保護用の制度上の不正行為」から、付け加えて、「製薬産業の置き換えられた保護政策。」

政府健康機関がビッグ

Pharma とチメロサールの危険を共謀してどのようにして公と見せないようにしておいたかという話は、制度上の横柄さ、力および貪欲の冷える事例研究です。私は、論争に単に不承不承に引き込まれました。水銀毒性の問題に作用して数年を過ごした弁護士および環境保護論者として、私は、子供がワクチンによって負傷したと絶対に確信していた自閉的の子どもの母親にしばしば会いました。私的に、私は懐疑的でした。

私は、自閉症を単一の出所の責任にすることができるかもしれないかどうか疑いました。また、私は、確かに予防接種が安全であると親に再保証する政府の必要を理解しました; 致命的な幼年期疾病の根絶はそれに依存し(カリフォルニアの民主党員)ます。私は、ヘンリー・ワックスマン下院議員のような懐疑論者と一致する傾向がありました。この人は自閉症と予防接種に関する結論に飛んだことで下院政府改革委員会の彼の同僚を非難しました。「なぜ……すべきだ……私たちは免除に関して人々を脅えさせます。」ワックスマンは 1つの審問で「私たちが事実を知っているまで」?ことを指摘しました。

私がそれに確信させられるようになったのは、Simpsonwood 記録を読み、主要な科学的調査を勉強し、国の水銀についての秀でている権威の多くと話した後にだけでした……チメロサールと幼年期の流行病の間のリンク……神経学上の障害……実際です。自分の子どものうちの5人は、ワクチンか(1989年と2003年の間に生まれたもの)ら水銀の高用量を受け取ったチメロサール世代のメンバーです。「基本の等級は、神経学上か免疫系損害の徴候を持っている子どもと圧倒されます」(学校ナース)とパティ・ホワイトが1999年に下院政府改革委員会に伝えました。「ワクチンは私たちをより健康にしていると思われまます; しかしながら、25年間の看護で、私はこれほど多くの被害を受けて病気の子供に会ったことはありません。非常に間違ったことが私たちの子どもたちの身にふりかかっています。」

500,000人を越える子供が、現在自閉症に、000 を越える新しい事件を分析します。チメロサールが1931年に赤ん坊ワクチンに苦しみます。また、小児科医は毎年40 最初に加えられた後、その月で11人の出生児の間で識別され分析された時、その病気は1943年まで未知でした。

何人かの懐疑論者は、自閉症の上昇がチメロサールに汚染された予防接種によって引き起こされると議論します。それらは、増加がよりよい診断の結果であると主張します -- 自閉症のほとんどの新しい事件が子どもの単一の世代内にクラスターに分けられるとすれば、せいぜい疑わしく見える理論。「流行病が本当に貧弱な診断の人工品である場合」とボイド・ヘーリー博士は嘲笑します、世界の水銀毒性についての権威のうちの 1人、「その後、20年来のautistics はすべてどこですか。」他の研究者は、汚染された魚から歯のfillings まで以前より水銀の大きな累積的な「ロード」にアメリカ人がさらされることを指摘し、ワクチン中のチメロサールがはるかに大きな問題の単なる一部であることを提案します。それはそれが受け取ったよりはるかに多くの注意に確かに相当する関係です -- しかし、それは、ワクチン中の水銀集中が私たちの子どもたちへの接触の他の源を小さく見せるという事実を見落とします。

とても著しいことは、チメロサールに対す(そしてカバーする)る証拠を無視しに、主要な探偵の多くが行った長さです。まさに始めから、水銀添加物に対する科学的な事件は圧倒しています。防腐剤(それはワクチン中の菌類および細菌増殖を止めるために使用される)は、エチル水銀(強力な神経毒)を含んでいます。研究のトラック1台分の積み荷は、水銀はそれらがワクチンを注入された後、大主教および他の動物の脳に蓄積する傾向があることを示しました --

そして、幼児の開発途上の脳は特に敏感です。1977年には、ロシアの研究で、アメリカの子どもに与えられたものよりエチル水銀のはるかに低い集中にさらされた大人がまだ苦しむことが分かりました……脳損傷……数年後に。ロシアは20年前に子どものワクチンからチメロサルを禁止しました。また、デンマーク、オーストリア、日本、イギリスおよびすべてのスカンジナビアの国々は、それ以来先例に従いました。

「あなたは、チメロサルが安全なことを(この人はケンタッキー大学で化学部を率いる)示す研究を構築しさえすることができませんでした」とヘーリーは言います。「それはまた有毒の正当な繕いです。あなたが動物にチメロサルを注入すれば、その脳は病気になるでしょう。あなたが組織の実践にそれを適用すれば、細胞は死にます。あなたがペトリ皿にそれを入れれば、文化は死にます。これらのことを知って、損害を引き起こさずに、一つが幼児にそれを注入することができたならば、ショッキングでしょう。」

内部文書は、その製品が動物と人間の両方(また死さえ)に損害を引き起こすかもしれないことをスタート(それは最初にチメロサルを開発した)からイーライ・リリーが知っていたことを明らかにします。1930年には、会社がターミナルの脳膜炎を持った22人の患者にそれを処理することによりチメロサルをテストしました、そのすべては数週間の注入されること内に死んだ——事実リリーはわざわざチメロサル金庫を宣言するその研究で報告しませんでした。1935年には、別のワクチン・メーカーの研究者(ピットマン=ムーア)が、チメロサルの安全性に関するそのクレームが「私たちのものと一致しなかった」とリリーに警告しました。ピットマンがチメロサルに基づいたワクチンを注入した犬の半分は気分が悪くなりました、指導的研究者……防腐剤を「犬に用いるための血清として不十分な」と宣言するためにそこに。

続いた数十年間で、チメロサルに対する証拠は増大し続けました。第二次世界大戦中に、国防総省が兵士上でワクチンの中で防腐剤を使用した時、それはそれを「毒」と呼ぶことをリリーに要求しました。1967年には、応用微生物学の研究で、注入されたワクチンに加えられた時チメロサルがハツカネズミを殺すことが分かりました。4年後に、リリー自身の研究は、チメロサルが1ppmもの低い集中で「組織細胞へ有毒だった」と識別しました — 典型的なワクチン中の集中より100倍弱い。それでも、「無毒な」ものとして、その会社はチメロサルを促進し続け、局所消毒剤にさらにそれを組み入れました。1977年には、チメロサルで保存されていた防腐剤がそれらの臍の緒の上に軽打された時、トロント病院の10人の赤ん坊が死にました。

1982年には、FDAが、チメロサルを含んでいた店頭取り引きの製品の禁止を提案しました。また、1991年には、機関が動物ワクチンからそれを禁止することを考慮しました。しかし、悲惨に、その同じ年、CDCは、幼児が一連の水銀で飾られたワクチンを注入されるように勧めました。新生児は誕生の24時間以内にB型肝炎のために予防注射を受けるでしょう。また、2か月の幼児はhaemophilus influenzae B およびジフテリア破傷風百日咳のために免疫になるでしょう。

製薬産業は、追加のワクチンが危険を持ち出すことを知っていました。CDCが新しいワクチンを承認したのと同じ年、モーリス・ハイルマン博士、メルクのワクチン・プログラムの父親のうちの1人、注射を処理された6—か月間 - olds が水銀への危険な接触を受けるだろうと会社に警告しました。

彼は、「特に幼児と子ども上で使用された時」、チメロサルが中止されるように勧めました、産業が無毒な代案のことを知っていたことに注目すること「行く最良の方法」と彼は付け加えました。

「防腐剤を加えずに、実際のワクチンを分配することになることである」

メルクおよび他の製薬会社にとって、しかしながら、障害は金銭でした。製薬産業は複数回投与を含んでいるガラス瓶でチメロサルによってワクチンを包むことができます。それらが多数の針エントリーによってより容易に汚染されるので、それは補足保護を要求します。より大きなガラス瓶は、より小さなものとして生産するべき多くとして、半分を要します、一回量ガラス瓶、国際的な機関が流行病の危険で貧困に陥った地方にそれらを配達することをより安くすることこの「コスト考察」に直面して、メルクはハイルマンの警告を無視しました。また、政府高官は子どものためにますます多くのチメロサルに基づいたワクチンを押し続けました。1989年の前に、アメリカの未就学児童はわずか3つの予防接種しか受け取りませんでした -- ポリオ、ジフテリア破傷風百日咳および麻疹耳下腺炎風疹のために。10年後に、連邦推薦のおかげで、子どもは、それらが第1の等級に達した時までに合計22の免除を受け取っていました。

ワクチンの数が増加するとともに、子ども間の自閉症の割合は爆発しました。1990年代に、4000万人の子どもが、脳発達には危機的な期間に先例がないレベルの水銀を受け取って、チメロサルに基づいたワクチンを注入されました。チメロサルの十分に立証された危険にもかかわらず、誰もわざわざ子どもが命じられたワクチンから受け取る水銀の蓄積量を合計しなかったように見えます。「FDAを連れて行ったもの……さようなら……計算を行うために」(作用のためのウイルスの製品の管理者)ピーターPatriarcaは1999年にCDCへの電子メールの中で尋ねました。「それらが急速に幼年期免除スケジュールを拡張した時、なぜCDCと顧問団はこれらの計算を行わなかったのですか。」

しかし、その時間までに、損害は終わりました。彼らのワクチンをすべて受け取った幼児は、ブースターを加えて、6か月によって、EPAのメチル水銀、関連する神経毒への毎日の接触のための限界以上にエチル水銀のレベルを187回注入されていました。それが急速に故障し、身体によって削除されるので、エチル水銀が危険をほとんど持(国立衛生研究所によって4月に公表された)ち出さないことをワクチン産業は要求しますが、いくつかの研究ものを含んでは、エチル水銀が脳の開発に実際により有毒でメチル水銀より長い脳の中にとどまることを示唆します。

幼年期免除に責任を負う職員は、追加のワクチンが疾病から幼児を保護するのに必要で、チメロサルが開発途上国においてまだ不可欠である、と主張します、どれ、それらはしばしば要求します、防腐剤を要求しない一回量ガラス瓶の余裕がありません。ポールOffit 博士、CDCのトップのワクチン・アドバイザーのうちの1人、「私は、私(また、確かに、私たちは、常に行うので、次の20年にするでしょう)たちがインフルエンザ大流行の病気を実際に持っていれば、私たちが一回量ガラス瓶を持った 2億8000万人を免疫にする神の地球上の方法がないと思います。」と私に伝えた。多重服用量ガラス瓶がなければなりません。」

しかし、公衆衛生職員は善意だったかもしれませんが、追加のワクチンを支持したCDCの諮問委員会のもののうちの多数は、産業に対して密接なつながりを持っていました(委員会の椅子)た。サム・カツ博士はほとんどの主なワクチン製造会社のための有給コンサルタントでメルクと麻疹ワクチンの特許を共有します。それはさらにB型肝炎ワクチンを製造します。ニール・ハルゼー博士、もう一人の委員、B型肝炎ワクチンについての彼の研究のためのアポット研究所からのワクチン会社のための研究者および受信謝礼金として働きました。

確かに、ワクチンに取り組む科学者のきつい円では、そのような利害衝突は一般的です。バートン下院議員は次のように言います……CDC「慣例的に、騒々しい利害衝突を持った科学者が新しいワクチン上の推薦をする知的諮問委員会に勤めることを可能にする。」たとえ、それらが「そのために公平な見落としを提供していると思われる製品および会社に興味」を持っても、下院政府改革委員会は、チメロサル入りのロータウイルス・ワクチン用ガイドラインを承認した8人のCDCのアドバイザーのうちの4人が「ワクチンの異なるバージョンを開発していた製薬会社と金融関係を持っていた」ことを発見しました。

Offit(この人はワクチンの特許を共有する)は、それを承認する彼の投票が市場性のある製品に結局結びつけば、彼が「利益を出さだろう」と私に認めました。しかし、彼は、科学者のCDCの承認における直接の金融利害関係が彼の判断にバイア(それによって悪くならなかった)スをかけるかもしれないという私の提案を捨てました。「それは私に矛盾を供給しません」と彼が要求します。

「私に、プロセスによって単に通知されました。私とそのテーブルでぶらぶらしていた時、私の唯一の意図は最も良くこの国の子どもに役立つ推薦をしようとしていました。内科医および公衆衛生人々が産業のポケットにいてそれらが子どもにとって安全でないことを知っている決定をこのように下している、と言うことは攻撃です。(ちょうど)それはそうです……ない作動する方法。」

他のワクチン科学者および取締役人は私に同様の保証をしました。Offitのように、それらは、その反ワクチン・キャンペーンが子どもの健康を危険にさらしている不合理な活動家によって包囲されて、個人の利益の魅惑に対して免疫のあって、製薬会社との「協力」を誇りにして、子どもの健康の啓発された保護者としてそれら自身を見ます。それらは多くの場合尋問に憤慨しています。

「科学」とOffitは言います。「科学者に最も良く任せられる」

まだ、何人かの政府高官は明白な利害衝突にびっくりしました。1999年のCDCの行政官への電子メールでは、FDAのポールPatriarcaは、追加の赤ん坊ワクチンによって持ち出された危険を十分に吟味しなかったことで連邦取締役人を激しく非難しました。「私は、FDA、CDCおよび免除政策身体がスイッチreで眠っていたかもしれないという潜在的な認識からの安易な解決手段があるかどうか分かりません: チメロサル」とPatriarca は今までに書きました。規定する職員と製薬産業の間の密接なつながりが子どもワクチン中のチメロサルに「さらに使用のための積極的な推薦に関する様々な顧問団に関する問題を提起するだろう」と彼は付け加えました。

もし連邦の取締役人および政治科学者がこの数年にわたってチメロサルの潜在的リスクを理解しなければ、誰もSimpsonwood で秘密会議の後に無知を要求することができないでしょう。しかし、自閉症および脳損傷の他の形式へのリンクをテストする、より多くの研究を行なうのではなく、CDCは科学に関する政治を置きました。(アメリカの健康保険制度)その機関はそれを補足研究に使用することができないことを保証して、個人の機関に、幼年期ワクチン(それらは大部分は納税者費用で開発されて)いた上でそのデータベースを渡しました。(チメロサルと脳障害の間のリンクの正体を暴露する研究を生産するために米国科学)さらに、それは医学研究所アカデミーの一部である諮問機関に教えました。(よく)それらが2001年1月に最初に会合した時、CDCは「私たちにこれらのものがかなり安全であると宣言してほしい」、とマリー・マコーミック博士(この人はIOMの免除安全審査委員会の議長を務めた)は、彼女の研究者仲間に伝えました。「私たちは、常にその[自閉症]を下って来るつもりではありません……真実の副作用である」チメロサル接触の。(キャサリン・ストラットン)会合の記録によれば、委員会のチーフ職員は、証拠がチメロサル

と自閉症の間で「因果関係を受容するか拒絶するのに不適當だった」と IOM が結論を下すだろうと予言しました。それと彼女は加えました、結果だった「ウォールトは望む」——ウォルター Orenstein 博士(CDC のための全国予防接種の管理者)への言及。

予防接種の促進に彼らの生命を当てた人々のために、チメロサルに関する意外な新事実は、それらがそのために働いたものすべてを害する恐れがありました。(もう一人の委員)「私たちは、後部によってここにドラゴンを持っています」とマイケル Kaback 博士が言いました。「より多くの否定[私たちの……プレゼンテーションはそうです]、それほど有望でない人々は予防接種(免除)を使用する予定です——また、その結果は何か私たちが知っています。私たちは、わなの中でまあ捕らえられます。私たちは、どのようにわなからの出口を動かすか、私は考えます……チャージである。」

公的にさえ、連邦政府高官は、チメロサールの研究の主要なゴールがワクチンについての疑いを払拭することであることを明らかにしました。「現在の4つの研究が、自閉症とチメロサールの間の提案されたリンクを除外する場所をとっています」とゴードン・ダグラス博士(国立衛生研究所のワクチン研究用戦略的計画の当時の監督)が、2001年5月にプリンストン大学の集いに保証しました。「[麻疹]ワクチンを自閉症の高い危険にリンクすることを主張する研究の悪影響を取消すために、私たちは、親に安全性を保証する追加の研究を行ない公表する必要があります。」ダグラスは、以前はメルクの予防接種の社長を務めました。そこでは、彼は、チメロサールの危険に関する警告を無視しました。

昨年5月に、医学研究所はその最終報告を出しました。その結論: ワクチンの中に自閉症とチメロサールの間に証明されたリンクはありません。やや……文学の大きな身体の調査より……チメロサールの毒性についての記述、報告書……4つの悲惨に欠陥のある疫学の研究で依存された……検査するヨーロッパ諸国、子どもがアメリカの子供よりチメロサルのはるかに低用量を受け取ったところで(小児科)。さらに、それは、雑誌(それはチメロサルと自閉症の間のリンクを縮小するために再加工された)の中で公表されて、Verstraeten 研究の新バージョンを引用しました。最近の研究は子どもをまた含みました…… 自閉症と診察されたのに若い……またその(の中で(科学的な身体のための驚くべき位置))病気のサインを示した他の人を無視しました。IOMは、その場合が閉じると宣言し、それ以上、研究が行なわれないように勧めました。

その報告書はCDCを満足させたかもしれま(下院政府改革委員会に勤めて、「貧弱な設計」によって「致命的に欠陥のあった」)せん。しかし、それは誰も確信させませんでした。デービッド・ウェルドン下院議員握りの研究にそれが依存したと言って、医学研究所を攻撃し、「利用可能な科学的・医学的研究」をすべて表わさなかった、フロリダの共和党内科医。CDCの職員は真実の正直な搜索に興味を持ちません、ウェルドンは私に伝えた、「ワクチンと自閉症の間の協会は、それを認めることをそれらに強いるだろう……それらの政策は修理できずに何千もの子どもを破損しました。誰がそれら自身に関するその結論を作りたいと思うでしょうか。」

会議、親および少数のそれ自身のパネル・メンバーからの圧力の下では、医学研究所は、不承不承に1番目の発見物を調査する別のパネルを召集しました。2月に、異なる科学者からできている新しいパネルは、透明のその不足のことで初期のパネルを非難し、そのワクチン・データベースを公に利用可能にするようにCDCに要求しました。

しかしながら、これまでのところ、2人の(アメリカのジェネティクス・センターおよび(デービッド)彼の息子の社長)科学者だけがどうにかアクセスを獲得しました。マークGeier 博士は、CDCからカルテを得るために戦って一年を過ごしました。2002年8月以来ずっと、国会議員がデータをひっくり返すために作用に圧力を加えた時、Geiers は子どもの中のチメロサルおよび神経学上の損害の間の強力な相関性を(それは1990年と1996年の間に生まれたもの)実証する6つの研究を終えています。1つの研究で 1981年と1985年の間に出生児によって受け取られた水銀の蓄積量を比較するは、自閉症とワクチンの「非常に重要な関係」を見つけました。教育の実行に関する別の研究で、言語障害と精神遅滞に苦しむのにありそうなものとして自閉症および3回以上と診察されるのにありそうのように、ワクチン中のチメロサールのより高用量を受け取った子供がほぼ3回であることが分かりました。別の近い将来の公表された研究は、自閉症割合がほとんどのワクチンからのチメロサールの最近の除去に続く衰退にあることを示します。

連邦政府が、科学者がワクチンを研究するのを妨げるために働くとともに、他のものは自閉症へのリンクを研究するために介入しました。4月に、UPIのリポーター、ダン・オムステッド自身は、より面白い研究のうちの1つ(科学者が典型的には実験の中で「コントロール」として使用する人口の種類)を試みました。ワクチン中の水銀にさらされていないかった子どもを捜すこと……オムステッドは、ランカスタ(ペンシルバニア)郡のアマン派を磨きました、彼らはそれらの幼児を免疫にすることを拒絶します。自閉症の全国料金を与えられて、オムステ(アーミッシュの共同体の外から養子になつ)ッドは、130 autistics がアマン派中にあるに違いないと推定しました。彼は4だけを見つけました。1つは発電所からハイ・レベルの水銀に露出されました。他の3つは 1人の子どもを含んでは、それらのワクチンを受け取りました。

州レベルでは、多くの職員が、さらにチメロサールの詳細な調査を導きました。医学研究所が危険に白塗料を塗るのに忙しかった間、アイオワ立法部は注意深く、利用可能な科学的・生物学のデータのすべてを捜索していました。「3年間の調査の後、私は、自閉症で水銀と増加した発生率の間のリンクを示す十分な確実な研究があったと確信するようになりました」と州上院議員知識フェーンストラ(調査を監視した共和党員)が言います。「ますます多くのワクチンが子どものワクチン・スケジュールに加えられた直後、アイオワの自閉症の700パーセントの増加が1990年代に始まったという事実は、確固たる証拠だけです。」昨年、アイオワはカリフォルニアを後に続けて、ワクチン中の水銀を禁止する最初の州になりました。同様の禁止は今、32の他の州で考慮中です。

しかし、先例に従う代わりに、FDAは、ステロイドおよび注入されたコラーゲンと同様に多くの店頭取り引きの薬物治療にメーカーがチメロサルを含むことを認め続け(今それらのうちのいくらかは自閉症割合中の突然の爆発を経験している)ます。もっとその上警報を発すること、政府は、開発途上国へのチメロサルで保存されていたワクチンを送り続けます。(ここでその病気は1999年に、米国の製薬業者によるチメロサールの導入に先立って事実上未知だった)中国では、ニュースレポートは、180万を越えるautisticsが今あることを示します。信頼できる数は見つけるのが困難ですが、自閉性障害はさらに、今チメロサルで飾られたワクチンを使用しているインド、アルゼンチン、ニカラガアおよび他の開発途上国で急上昇するよう見えます。世界保健機構は、チメロサルが安全であることを要求し続けます。しかし、それは、それが「調査中の」神経学上の障害にリンクされる可能性を維持すると約束します。

これが取り組まれるに違いない道徳的危機であると信じるので、私は、この問題を検討する時間を当てました。場合、証拠が示唆するとして、私たちの公衆衛生当局は、製薬産業がアメリカの子どもの全世代を毒することを故意に認めました、それらのアクションは、恐らくアメリカの医学の記録で最も大きなスキャンダルの中の1つを構成します。

「CDCは不適當と重過失に対して罪があります」とマークBlaxill、薬における水銀の役割について関心を持っている非営利団(タバコ(かつて見たものすべてより大きな)より大きな)体安全な心の副大統領が言います。「ワクチン接触によって引き起こされた損害は重い。それは石綿より大きい。」

第三世界国家がアメリカの最も予告された対外援助イニシアチブが彼らの子どもたちを毒殺していると信じるために来れば、我が国(および伝染病を根絶する国際的な努力に)への損害を計算するのは難しい。このシナリオがアメリカの敵によってどのように外国へ解釈されるか予言するのは難しくありません。(それらのうちの多数……真実、理想主義)チメロサール上の科学を隠すために参加している科学者および研究者は、彼らが疾病大流行の病気から開発途上国の子どもの保護する高いゴールを進めようとしていると主張します。誤った指導は悪くそれらにされます。チメロサール上で清潔にならないことは我が国および世界の最も貧弱な人口に出没するために恐ろしく戻るでしょう。